

パッチワーク作品の 展示会

ほかにパッチワークキルト・
人形・クッション・バック・ポーチ等



展示品は加藤ひろ子の遺作品

エピソード



ひろ子が小さい時の事を以前に聞いた話を思い出した。
ひろ子が小さい時は、曾祖母・祖母の針仕事を見ていて、布をもらい真似て何かを縫っていたとの事。

その時の、生地・配色・縫いなどを自然と身につける事が出来たのでしょうか。大人になってくると、孫の服などを作ったりパッチワークも始めました。パッチワークには引き込まれるようにやり始め、パッチワーク一筋となり、催し物があれば多少遠くても出かけたり、パッチワークの教室を数多く通い勉強したようです。

そのように小さい時からの蓄積により自分自身のパッチワークカラーを確立したのだろう。

展示品には作成途中のものが多いことに気づかれています。アイデアが次々と浮かんで、主部のみでとりあえず終わりにして、次に進めたのだろう。最近、パッチワークと近いものがあるとの事で、孫のためにも通信教育で吊るし雛を作っていた。その後入院先の病院内では大きいものはできないと、つまみ細工を始めていた。

展示にはパッチワークの他に人形・動物・野菜・ポーチ・手提げ袋などあります。一時、時間をお忘れになり心を休めてくだされば幸いです。

会場：コミュニティながいずみ

住所：長泉町下土狩1283-11

展示会ボランティアも併せて募集
(時間：10：00～17：00までの間)

開催日時	水	木	金	土	日
10:00～18:00 (6/7のみ17:00まで)	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7

お問い合わせ
窓口

主催：加藤 博
協力：社会福祉法人長泉町社会福祉協議会
電話：055-988-3920

ボランティア受付はこちら→

